

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
				4	3	2	1				
学力の向上による進路保障（①授業力の向上②生徒の学力の向上③生徒の自己実現に向けた進路支援）	1学年	基礎基本的事項の習得を図り、個々の進路希望に対応できる学力の養成に努める。	1	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導ができたが、満足な効果があった。	個々の学力・適性を把握した上で十分な学習指導ができたが、効果については更に工夫を要する余地がある。	個々の学力・適性の把握はできたが学習指導を更にする必要があった。	個々の学力・適性の把握が不十分で学習指導も更にする必要があった。	3.0	B	予習せざるを得ない授業設計と復習せざるを得ない課題提示の工夫に努めた。生徒個々の状況に応じたアプローチに改善の余地がある。	・様々な方から学力の高さについて、評価の高さを感じる言葉を耳にします。今後も謙虚な姿勢で引き続き取り組んでください。
		教科学習・進路学習やLHRIにおける指導により進路を思考する態度の育成を図る。	2	個々の生徒に応じた的確な進路情報を提供でき、自らの進路を常に意識させることができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供でき、自己の進路を自主的に考えさせることができた。	一般的な進路情報を提供し、自己の進路を考える機会を与えることができた。	個々の生徒に応じた進路情報を提供できず、また生徒も進路意識をまったく持っていない。	3.0	B	5年後あるいは10年後の自分の姿を想像させ、自己実現のプロセスを考えさせた。情報を適切に与え、自主的な進路選択を指導した。	
	2学年	進路実現に向けて、生活と学習の両面の基本習慣となる力を身につけさせる。そのために自ら学び考え判断する力を育む。	3	個々の学力・適性を十分把握をした上で綿密な学習指導・進路指導ができたが満足な効果があった。	個々の学力・適性を把握した上で、十分な学習指導・進路指導ができ、おおむね効果があった。	個々の学力・適性の把握はできたが、学習指導・進路指導においては、あまり効果がなかった。	個々の学力・適性の把握が不十分で、しかも学習指導・進路指導にもあまり効果はなかった。	3.0	B	昨年以上に個々の生徒の学力・適性の把握ができた。今後は進路目標達成に向けて、個々の生徒に対してより細やかな指導を図りたい。	・評価Cの項目は気になります。現実的な面を見ずけているのではないかと。逆に地道に出来ている事をみとめてはどうか。全体的にB評価なのは、無理にまともすぎている気がする。
		個々の生徒の学力と進路希望の把握に努め、進路実現に相応しい学習計画の指導と受験指導を行う。教科担当と担任・学年団のコミュニケーションを密にし、情報を共有しながら集団で進路指導を行う。	4	個々の学力・適性を把握した上で、十分な学習指導・受験指導ができ、満足な効果があった。	個々の学力・適性を把握した上で、十分な学習指導・受験指導ができ、おおむね効果があった。	個々の学力・適性の把握はできたが、学習指導・受験指導においては、あまり効果がなかった。	個々の学力・適性の把握が不十分で、しかも学習指導・受験指導にもあまり効果はなかった。	3.1	B	生徒の学力・適性の把握は出来た上に、個々の生徒に適応した教材選択等により、落ち着いた学習状況が一年間見られた。教科間等の横の連携をさらに密にして、個々に対してのきめ細やかな指導に余地がある。	
	教務	研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図る。	5	各教科で学期に1回研究授業が行えた。	各教科で年間に1回研究授業が行えた。	一部の教科で研究授業を実施できなかった。	研究授業を実施することができなかった。	2.4	C	学力向上プロジェクト以外では研究授業は実施出来なかった。公開授業と研究授業の在り方や実施時期、回数等を再検討する。	・見る角度により評価は異なってくる。学校として特記した分野を確立することも大切。
		生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に努め、授業改善を試みる。	6	教材研究の為に研修会などに積極的に参加し授業改善ができて、生徒の学力向上につながった。	教材研究の為に研修会などに参加し授業改善がほぼできて、生徒の学力向上が期待できた。	教材研究に努め、授業改善の見通しがついた。	新しい教材開発もせず、旧態依然とした授業であった。	2.6	B	「生徒の実態」に即した目標を設定し、それに伴う実践、評価、指導改善を行う、PDCAサイクルの確立を目指す。	・組織間の連携を強めることでもっと改善できる部分があるのではないかと。
	進路指導	個々の生徒の進路実現に向け、低学年からの系統的・持続的な進路指導計画とその実行を目指す。 1)各学年との連携を強化し、進路HRや各進路行事(進路講演会、外部講師による模擬授業など)の計画的実施を推進する。 2)生徒の実態や進路希望に合わせた補習を計画し、学年進行に伴って発展的に実施できるように工夫する。 3)インターンシップの推進として、就職希望者および、保育系・看護医療系進学希望者への「一日体験」を確実に実施していく。	7	各学年との密接な連携の中で、進路HR、各進路行事を系統的に継続実施し、個々の生徒の進路意識向上に大きく効果を上げた。	進路HR、各進路行事を系統的に継続実施し、各学年での個々の生徒の進路意識向上に、おおむね効果を上げた。	進路HR、各進路行事を実施はしたが、時に場当たり的なものになり、生徒の進路意識向上にはあまり効果がなかった。	進路HR、各進路行事に計画性がなく、その実施も不安定なものであった。生徒の進路意識向上への機会も十分与えられなかった。	3.0	B	各学期2回の進路HRの実施、進路行事の充実に努めたが、継続性やその効果について検証の余地がある。キャリア教育の推進も踏まえた改善を考えたい。	
			8	全学年・年間を通して各学年に必要な内容の補習がしっかりと立案・実施され、生徒の進路実現に大いに役立った。	学年や時期にはややムラがあるものの、年間での必要な内容の補習が立案・実施され、効果も上がった。	生徒の実態に合わせた補習計画は立てられたが、内容や実施期間に不十分な点が多かった。	内容についてはあまり検討されず、例年通りの補習で終わった。	3.1	B	各学年・教科において活発に実施されたが、生徒の実態や要望に合わせ、焦点を絞った形での実施に向け、さらに検討を重ね、より効果的な補習を目指したい。	
			9	就職希望者、保育・看護医療系進学希望者へのインターンシップが全て計画的に実施され、生徒も意欲的に参加し、進路意識向上に大いに役立った。	就職希望者、保育・看護医療系進学希望者へのインターンシップが計画的に実施され、生徒の進路意識向上の1つの機会となった。	就職者希望者へのインターンシップ実施が不十分で、その他のものについても生徒への啓発が不十分で、効果的に実施されなかった。	インターンシップの計画はなされたが、実施に至らなかった。	3.2	B	参加人数は少ないものの、就職希望者等計画されたインターンシップは実施できた。今後は、インターンシップが各生徒の進路実現に強くつながるものになるよう、事後指導を充実させたい。	
	図書情報	生徒の興味・関心・研究意識を高める蔵書をを整え、読書意欲を高め、読書機会を増やす。	10	図書館利用者数、貸し出し冊数が大幅に増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数が増加した。	図書館利用者数、貸し出し冊数に変化がなかった。	図書館利用者数、貸し出し冊数が減少した。	2.7	B	計画通りに蔵書を整えることができた。朝の読書週間を設け、読書に関心を持つ一助としたが、読書機会を増やすために新たな企画を考えて実施すべきである。	
		コンピュータを活用した教材研究により授業効果を高め、生徒の学力向上及び進路実現を図る。	11	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成により、かなり効果的な授業を行うことができた。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はできたが、授業効果としてはまだ改善の余地がある。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はたまに行う程度であった。	インターネット又はワープロソフト等を活用した教材の作成はほとんどしなかった。	2.9	B	ICT環境を改善し、より使いやすい環境に整えていくとともに、ICTを活用した授業方法及び教材資料に関する情報提供を従来以上に積極的に行う。	
	研究推進	学校設定科目「科学・技術・社会」「科学英語」「科学英語情報」や理数科目の授業内容の充実を図る。	12	充実した内容で実施でき、新たな教材開発ができた。	実施により、一部で新たな教材開発ができた。	実施により、新たな教材開発がほとんどできなかった。	実施により、新たな教材開発が全くできなかった。	3.0	B	研究指定5年目で教材開発は進んでいるが、更なる充実を図るため、科目間の連携などを進めていかなければならない。	
		「自然科学探究」における課題研究の充実と発表会の実施を行う。	13	1年・2年とすべての班で課題研究の発表ができた。	2年は全部、1年は半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。	1年・2年合わせて半分以上の班で課題研究の発表ができた。	3.2	B	9月の中間発表会、2月の研究発表会を実施できた。3月の校内発表会を含め、来年度も続けていきたい。	
		評価アンケート集計による理数科目に対する興味・意欲の分析とアンケート結果のフィードバックを実施する。	14	評価集計により、SSH事業実施による効果が十分に認められた。	SSH事業実施による効果がやや認められた。	SSH事業実施による効果はあまり認められなかった。	SSH事業実施による効果がほとんど認められなかった。	3.0	B	夏と冬の全校生徒対象学力アンケート、冬の学科生徒・保護者対象アンケートによる分析を今後も継続したい。	

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
				4	3	2	1				
豊かな人間性を持った生徒の育成 ① 規律ある態度の育成 ② ふるさと貢献 ③ 人権教育の充実	1学年	1) 日常の学校生活を通じて、基本的生活習慣の確立や公共心の育成に努める。 1) 基本的生活習慣	15	1) 基本的生活習慣が確立し、遅刻もなく、挨拶も非常に気持ち良くよくできている。	1) 基本的生活習慣がほぼ確立し、遅刻もほとんどなく、挨拶もよくできる。	1) 基本的生活習慣が十分には確立しておらず、遅刻も目立ち、挨拶もあまりできない。	1) 基本的生活習慣が乱れており、遅刻も大変多く、挨拶もできない。	2.9	B	自律的に生活できる生徒を増やすことができています。反面、遅刻を繰り返す生徒もあり、きめ細かい指導を要する。	・「数学理科甲子園」での決勝出場はかなわなかったものの、挑戦に大きな拍手を送ります。園児との触れ合いの場が年間数回ありますが、どの生徒も非常に穏やかで好感が持てます。教職員が生徒一人ひとりを大切にされている証だと思えます。 ・キャンパスカウンセラーの周知にもっと工夫がいるのではないかと。カウンセリングではこんな事もあるなどの内容がわかりやすい伝達を。冊子を作っても効果があると思う。
		2) 排除	16	2) 公共心・美化意識が強く、指導なしでも意欲的に隅々まで掃除ができています。	2) 公共心もあり、割り当てられた分担区域等は責任を持って掃除ができています。	2) 公共心や清掃について指導を要するときとときどきある。	2) 公共心や清掃方法について常に指導が必要である。	2.8	B	地域清掃などに積極的に参加する生徒が増えています。しかし登下校のマナーに苦言を頂くことがあり、公共心育成を工夫したい。	
	2学年	日常の学校生活を通じて、基本的生活習慣の確立や公共心の育成に努める。	17	基本的生活習慣が確立し、遅刻もなく、挨拶も非常に気持ち良くよくできている。	基本的生活習慣がほぼ確立し、遅刻もほとんどなく、挨拶もよくできる。	基本的生活習慣が十分には確立しておらず、遅刻も目立ち、挨拶もあまりできない。	基本的生活習慣が乱れており、遅刻も大変多く、挨拶もできない。	2.8	B	大半の生徒が規律ある生活習慣を確立できたが、時期により遅刻者が増加するなど個別に指導を要する者もいた。今後はさらに自主的に行動できるよう指導していきたい。	
		中堅学年としての自覚を持たせ、様々な学校行事に積極的に主体的に取り組み、集団の中で自己の役割を果たすことの出来る生徒の育成を図る。	18	すべての行事において、生徒が主体的に活動し、自己の役割を責任をもって果たした。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動し自己の役割を果たした。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しく、自己の役割を果たす生徒が少なかった。	3.2	B	ほとんどの行事において、準備段階から生徒が主体的に実践し役割を果たしながら素晴らしい取り組みが出来たと思われる。	
	3学年	最上級学年としての自覚を持たせ、学習に対する意識を高めるために授業開始時に風紀面のチェックを行う。共に励まし合える関係をクラス内に育て、居心地の良い「場」を提供することで個人の頑張りをバックアップする。	19	学年団の意図するところを大多数の生徒がよく理解し、良い緊張感が勉強への集中を促した。クラス内で励まし合える人間関係が育ち、受験勉強の頑張りにつながった。	学年団の意図するところを大半の生徒が理解し、緊張感が勉強に良い影響を及ぼした。クラス内で励まし合える人間関係も見られた。	学年団の意図するところはあまり伝わらず、最上級学年としての自覚を高めるには至らなかった。クラス内での励まし合いもごく一部にとどまった。	学年団の意図するところは伝わらず、風紀も乱れ気味で頑張る雰囲気が出来なかった。クラス内で支え合う様子もあまり見られなかった。	3.1	B	規律のある学習集団として終始できた。受験直前の焦りが出て、生活のリズムを崩し欠席等が少し出たのが残念であるが、共に励まし合う人間関係はある程度築き上げてきた。	
		学習外の活動・行事:「花壇整備」「防災訓練」「芸術鑑賞」「震災等追悼行事」「記念行事」「清掃活動」等を計画し、他の分掌と連携の上、円滑に実行し生徒の社会性の向上を図る。	20	全ての行事や活動において計画内容もよく、他の分掌との連携も円滑に実施でき、生徒の社会性の育成に十分に寄与できた。	ほぼ全ての行事や活動において、他の分掌とも概ね円滑に連携し、生徒の社会性の育成に寄与できたと言える。	行事や活動は実施できているが、計画内容がやや不十分である、または、計画内容通りには十分実施できているとは言えない。	行事計画に不十分な点が多く、実施に於いても、他の分掌との連携が不十分で、今後内容とも十分な検討が必要である。	3.2	B	ほとんどの行事や活動においては、概ね円滑に実施できた。他の分掌との連携も比較的良好であったと思う。清掃については、舎外清掃にももう少し目を向ける必要がある。	
	総務	規律のある学校生活に向けて、授業時間を確保できるよう検討する。	21	来年度に向けて具体策が決定した。	具体的な方向が検討できた。	検討することができた。	現状を変えることができなかった。	2.5	B	学期末考査後の授業時間の在り方の検討と、質的な授業内容向上に向けた意識改革を進めたい。	
	生徒指導	遅刻指導の徹底を図る。	22	年間通して遅刻者0の者が80%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が70%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が60%以上あった。	年間通して遅刻者0の者が50%以下あった。	3.1	B	大半の生徒は遅刻していないが、天候の状況で遅刻している。もう少し余裕を持って行動できるよう家庭に協力をお願いしたい。	
		ふるさと貢献事業の充実を図る。	23	地域のためにいろんな事例を計画し実施できた。	地域の依頼については実施できた。	地域の依頼については時々できた。	地域の依頼等については、ほとんど実施できなかった。	3.2	B	生徒会、ボランティア、音楽部中心に活動している。地域の依頼等についてはより一層協力していきたい。	
	図書情報	生徒会(図書委員会)との連携を密にし、生徒が主体となる委員会活動を展開する。活動の重点は文化祭、読書会、朗読会、図書館便り作成、一斉読書などとする。	24	すべての行事において、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事で、生徒が主体的に活動した。	殆どの行事はこなしたが、生徒の主体的活動の場が少なかった。	行事が成り立たず、生徒の活動も乏しかった。	3.1	B	文化祭、読書会、朗読会、図書館便り作成、一斉読書等の毎年実施している行事は、概ね生徒中心に運営できたが、今後行事を精選し、生徒がもっと意欲的に参加できる新たな行事を企画することが今後の課題である。	
心身の健康の充実	保健	キャンパスカウンセラーとの連携を図り、心身共に健康な生徒の育成を図る。	25	カウンセリングは計画通り行われ、カウンセラーとの連携が図られており、十分な効果が得られている。	カウンセラーとの連携は図られているが、時間確保が不十分で生徒へのアドバイスが十分できていない。	カウンセラーとの連携が不十分で、しかも十分な効果が得られていない。	教育相談体制が整っていない。	3.5	A	カウンセリングの内容を教育活動に活かせるよう、学年との連携を来年度も図ってきたい。	・「数学理科甲子園」などの入賞が評価の基準になっているが、評価以上により影響を与えていると思う。自己改善に繋がるような項目を考える必要がある。
		生徒保健委員会活動を活性化し、保健だより等を通じて生徒の健康に対する意識を高める。	26	定期的に保健だよりを発行し、生徒の健康に対する意識を高めることができた。	定期的に保健だよりを発行しているが、生徒の健康への意識は十分高まっていない。	保健だよりを生徒が読んでいないため健康に対する意識も低い。	生徒保健委員会の活動ができていない。	3.4	A	本年度も生徒会の保健委員会で分担させて役割を果たさせた。来年度も継続していきたい。	
	研究推進	海外研修や国内研修の実施。	27	研修計画はすべて実施でき、研修内容も含め十分な目的を達した。生徒の進路決定の補助としての役割が十分に達成された。	研修計画はすべて実施できたが、一部研修内容に不十分な点があった。生徒の進路決定の補助としての役割が一部達成された。	研修計画は一部実施できなかった。生徒の進路決定の補助としての役割が不十分であった。	計画がほとんど実施できなかった。生徒の進路決定の補助に全くなかった。	3.4	A	今年度も、海外研修・国内研修ともに、計画通り実施できた。来年度もさらに内容の精選を行い、充実した研修としたい。	
		各種オリンピック・数学甲子園への参加。	28	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、上位入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園の参加で、一部で入賞を果たした。	オリンピック・数学理科甲子園に参加したが入賞がなかった。	オリンピック・数学理科甲子園に参加できなかった。	2.2	C	数学オリンピック・数学理科甲子園予選への出場はできたが、数学理科甲子園での決勝出場はかなわなかった。	
	心の教育委員会	職員研修会と生徒向け講演会の精選と充実を図る。	29	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる的確なテーマを選択し、会の運営ができた。	職員の指導力向上と生徒の人権意識の高揚につながる会の運営ができた。	テーマの選択、講師依頼のどちらかが不適切であった。	テーマと講師の選択を誤り、あまり実のない会になった。	3.1	B	講師の人選にもっと幅広い視野と職員や生徒達の要望を考慮して実施すべきであった。講師の謝礼金をどのように工夫するかが、今後の課題である。	
		対象生徒の実態把握および効果的な指導と校内の支援体制を整える。	30	保護者・学年との連携が図られており、対象生徒に対して十分な支援ができています。	対象生徒の実態把握はできており、個の生徒に応じた指導が不十分である。	支援体制が十分とはいえず、適切な支援もできていない。	対象生徒の把握や校内の支援体制が整っていない。	3.4	A	学期に一度、保護者と意見交換を行い、意思疎通は図れたと思う。来年度も継続していきたい。	

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	NO	評価基準				評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
				4	3	2	1				自己評価の適切さ
地域に信頼される学校づくり（①情報発信の手段と内容の充実②教職員の意識の高揚③地域との連携）	1学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信などを活用し、保護者との連携を密にし、学年運営を行う。	31	常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来たした。	3.3	A	学年通信を随時発行し、校内のようすを発信した。行事予定もできるだけ早く広報した。個別連絡もできるだけ緊密にした。こうした取り組みをさらに推進したい。	・各部署で積極的に取り組んでおられることがよくわかります。公開授業は是非計画立案をし進めてください。地域とのふれあいは幼児が中心ですが、乳児とのふれあいも取り入れてはいかがでしょうか。「豊かな人間性を養う」ことにも繋がるので、地域の保育所を活用して欲しい。
	2学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信、ホームページなどを活用し、保護者との連携を密にし、情報交換を行いながら学年運営を行う。	32	常に保護者との連携を密接に図りながら、円滑に学年運営ができた。	保護者との連携を図りながら、学年運営ができた。	保護者との連携は十分できなかったが、学年運営は概ねできた。	保護者との連携が十分に行われず、学年運営にも支障を来たした。	3.3	A	適宜、情報発信を行いながら保護者との連携を密接に図ることができた。今後はより保護者のニーズに応じた配慮をすることで、さらに理解を深めることにつなげたい。	
	3学年	保護者との懇談会や学年通信・三者面談などを活用し、常に保護者との連携を図りながら学年運営を行う。	33	保護者からの要望も把握し、学年通信・保護者会・三者面談等で学校の方針をしっかりと保護者に示し、円滑に学年運営ができた。	学年通信を月に一回は発行するなど多くの保護者に情報を発信し、保護者からの意見も集めることができた。	情報発信はしているが、保護者の信頼を得られるにはいたっていない。	情報発信があまりできていない。	3.3	A	学校の方針等の情報発信は十分出来た。保護者や生徒の意見も三者面談等で聞け、連携が図れた。	
	総務	対外的行事・活動の案内と実施、広報出版物の適切な編集と発行を他の分掌と連携し円滑に行う。	34	行事・活動のとりまとめ、案内と実施が円滑で、広報出版物の内容もよく発行できた。	行事の案内・実施はほぼ円滑にでき、広報物の発行もほぼ満足できるものであった。	行事の案内・実施はできたが円滑とは言えず、広報物の発行に今後の改善の余地がある。	行事の案内・実施に手間取り、広報物の発行にも今後の改善の余地が大きい。	3.1	B	対外的行事の案内・実施は、少し手間取りながらも、概ね円滑にできた。今後は、他の分掌との連携をもう少し密にし、部内においての役割分担にも考える必要がある。	・地域連携の評価が高いことは良いことだ。なお一層の取り組みを期待する。
	教務	教職員、地域の方々へ公開授業を行う。	35	地域の方への公開ができた。	すべての職員が授業見学した。	一部の教科で実施した。	まったくできなかった。	2.3	C	オープンバースクールでの公開授業の充実や公開授業週間の実施など、年度当初に計画を立案する。	・妊婦さんとの繋がりをもつ「赤ちゃん教室」などを活用するのものです。3年位のスパーンで計画的に取組むのも良い。
	生徒指導	通学指導	36	周囲に配慮し、自己の安全を図り通学できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有し、クラスで温度差なく指導できている。	苦情や事故に対して学年で情報を共有しているが、クラスにより温度差があり指導が統一できていない。	苦情や事故に対して学年で情報を共有できていない。	2.8	B	学校周辺での交通指導については、先生方の協力で安全に登校しているが、学校から離れた場所ではルールが守れていないようである。交通ルール、マナーについて、今一度生徒に確認させる。	
		生徒会活動・部活動等の情報をホームページで発信する。	37	たえず情報を発信できた。	学期に一度は発信できた。	年に一度は発信できた。	発信できなかった。	2.7	B	生徒会のブログについては発信できているが部活動等については発信できていない。部活動の結果については顧問に協力していただき県総体、新人戦については必ず発信していただく。	
	進路指導	進路通信の発行、情報誌の配布、大学等からの諸情報の伝達などを適切に行っている。	38	各種情報が計画的・継続的・効果的に伝達され、生徒の進路意識向上に大変役立っている。	各種情報がほぼ計画的・継続的・効果的に伝達され、生徒の進路意識向上の一助となっている。	各種情報がやや不定期ながらも伝達されたが、生徒の進路意識向上にはあまり役立っていない。	各種情報の伝達が質的・量的に不十分で、生徒の進路意識向上にほとんど役立っていない。	3.0	B	可能な限り計画的に、効果性も追求しつつ情報を伝達することに努めた。膨大な量の情報の伝達方法やその精選に留意していきたい。	
	図書情報	近隣の公立図書館との交流と連携を密にし、読書指導の充実を図る。	39	交流と連携が十分に図られた。	交流と連携が図られた。	交流と連携が不十分であった。	全く交流と連携が図られなかった。	2.8	B	修学旅行の東京研修の資料を公立図書館との連携でうまく利用することができた。今後公立図書館との連携をさらに密にはかりたい。	
	保健	校内救急体制を確立し、全職員に周知徹底を図り、緊急時の対応ができる。	40	職員全員が十分周知し、対応ができる。	救急体制が確立されているが、職員の対応が十分でない。	救急体制は確立されているが、職員の周知がなされていない。	救急体制が不十分で整備の必要がある。	3.4	A	AEDの講習会に多数の参加を得た。来年度も緊急時の対応がスムーズにいくような企画を工夫したい。	
研究推進	SSH通信の発行とホームページによる情報発信を行う。	SSH通信の発行ができて、ホームページに迅速に掲載できた。	41	月2回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	月1回以上定期的にSSH通信の発行ができ、ホームページに迅速に掲載できた。	SSH通信の発行ができたが、月1回以下の発行であった。	SSH通信の発行ができなかった。	3.0	B	SSH通信については、生徒への情報発信の手段として定着している。しかし、ホームページの内容については改善の余地がある。	
		親子サイエンス教室において、学科生徒と地域の連携を図る。	42	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動も十分に行うことができた。	サイエンス教室が実施でき、生徒の活動もほば行うことができた。	サイエンス教室は実施できたが、予定人数に達しなかった。または、一部で不備があった。	サイエンス教室が実施できなかった。	3.4	A	サイエンス教室は、人気も高く生徒の活動としても意義のある事業である。	
	心の教育委員会	高丘地人協、明人協、東人教、東高人教など地域の人権諸団体との連携を図り、人権教育の充実をめざす。	43	各協議会に積極的に参加し、人権教育の充実が図られた。	各協議会に積極的に参加できた。	各協議会には参加したが、人権教育の向上にはつながらなかった。	各協議会への参加が低調であった。	3.1	B	年間のスケジュール通りに実施出来たが、今後、今まであまり参加していない人権諸団体の研修会にも参加の機会を持ちたい。	